

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 県高体連登山部大会 (2/4~5 もみのき森林公園)
報告
2. 登山教室 (2/18~19 大山) 報告
3. 冬山技術研修会 (2/25~26 県民の森) 報告
4. 岳連短信 (寄贈御礼、3~4月の行事予定)

1. 県高体連登山部大会報告

(県高体連登山部事務局 内藤 弘泰)

令和4年度広島県新人登山大会 (2/4~5 もみのき森林公園) の報告です。

大会と銘打っていますが、広島県の高校登山部員が集まって雪上での歩行や生活技術を学ぶ研修会です。ピッケルやザイルを使うようなハイレベルなものではなく、廿日市市のもみのき森林公園内のクロスカントリースキーのコースをワカンで歩いて雪上歩行を体験する行事です。

今年は、講師の先生が「40年に一度のレベル」とおっしゃるぐらいの晴天にめぐまれて、最高の研修になりました。



以下に参加校生徒の感想文（写真付き）を紹介します。

【感想文】

(広島国際学院高校2年 尼野 心菜)

2月4日、5日にもみのき森林公園で開催された新人登山大会に参加しました。雪山登山は初めてのことでも不安もありましたが、終えてみるとすべてが想像以上で感動しました。

1日目は、現地に着いて昼食をとり、テント設営の講習がありました。私は雪の上でテントを張ることが初めてで、先生方に教えてもらいながらなんとか設営することができました。とても寒かったです。テントの中は意外と暖かかったです。設営の後は、雪上歩行訓練をしました。初めてスノーシューをつけて雪の上を歩きました。最初はなかなか慣れず、歩きにくかったです。コツをつかむと歩くことができました。そのまま高崎王冠山まで登りました。雪の上はふかふかしていてとても貴重な経験ができました。

2日目は朝早くから雪山を歩きました。この日はス

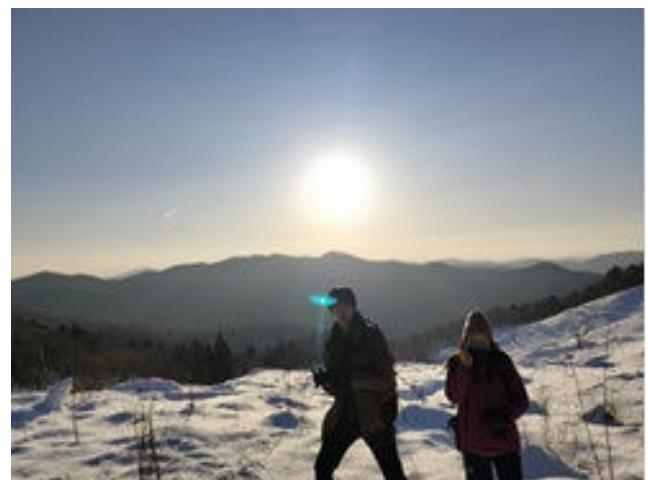
ノーシューではなく、ワカンをつけて登りました。個人的にはワカンの方が軽くて歩きやすかったです。2日目は1日目より少し長めの距離だったので大変でしたが、空気が澄んでいて、朝日で照らされた雪が輝いていてとてもきれいででした。

最初は雪山と聞いて、エベレストのような過酷な山をイメージしていたので、どうなるかドキドキしていました。しかし、今まで見たことのないような壮大な景色を見ることができ、感動しました。貴重な登山経験を安全に体験することができて良かったです。ありがとうございました。

(広島国際学院高校 2年 高山 零)

今回の大会は私たちにとって初めての泊まりでの開催でした。1泊2日という、いつもより長い時間の活動で、雪上での歩き方やテント設営など、様々なことを体験することができました。特に歩行訓練は、足が沈むほどの積雪の仲を長時間歩くという新鮮な感覚を味わえました。2日目の歩行では、天気もよく、早朝の雪山での絶景を拝むこともできました。話によると、ここまで天気がいいのは珍しいとのことでした。

そして、雪上でのテント設営も通常とは異なっており、整地から落雪への考慮など雪上ならではのテントの張り方を勉強することができました。一貫してとても寒かったです、早朝、外で温かいものを飲んだり、一面に広がる白銀の景色の中で歩行訓練をしたりなど、雪山でしか味わえない趣のある楽しみ方を体験することができ、雪山の楽しさを実感できた大会でした。



2. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

第11回 2/18(土)～19(日)

登山形態：小屋泊

山城：大山

人数：11名（スタッフ含）

今回は雪山の実践講習で大山七合尾根を登りました。次第に天気が崩れる予報でしたので初日に七合を登

り 2 日目は講習を中止し下山しました。 (森本)

【感想文】

『2 月登山教室 (大山六合尾根・七合尾根バリエーションコース) に参加して』

(登山教室 2 年 尾原 陽子)

雪のない時期にはブッシュがあり登山の難しいコースを積雪の多い 2 月に歩く、雪山実践山行でした。2 月の大山バリエーションコースは、冷え込みが強く雪面が安定していて、雪崩の危険性が少ない時期の講習と教えて頂きました。

2 年生になると課題が重く、月初めの机上講習が始まると緊張が高まります。スキーダンスを優先し、体調準備がおろそかになっていました。1 週間前に、慌てて白木山に登ったり、恐羅漢でワカンやアイゼン装着し雪山 2 時間ハイキングしたり、プールに行ったりしました。

山行前夜の 17 日に森本 CL さんから 18・19 日の大山天気予報のメールが届きました。予報は 18 日 : 朝は雪がちらつくも午後には次第に気温が高まり風雨強まる荒れた天気、19 日 : 朝は雷を伴い雨の荒れた天気、上部では暴風雨の恐れ。警戒事項としては強風による転滑落、落雷、低体温症、雪崩、雪庇崩落、視界不良の道迷い等、恐ろしくなる情報でした。これは現地に行っても登らずに帰ることになるかもしれないと思いつつも、替えの衣類・手袋、防水対策等再確認しました。

18 日大山駐車場到着時は、まだ曇り空で無風でした。出発前ミーティングで森本 CL さんが時間との戦いだと言われ、天候・雪質状態を見て 18 日登山・元谷避難小屋泊、19 日は天気の悪化が予想されるので早々の下山予定と話されました。大山寺参道は 2 月にしては珍しく雪はほぼなく驚かれていました。大山寺の鳥居を過ぎると杉木立の下、段々雪深くなっていますが、登山道には踏み跡があり雪もしっかり締っていたので順調に歩けました。林道に出れば楽勝だと思いきや、道は斜面から崩れ落ちた雪で斜面になって埋まっていました。体勢を崩して谷に滑落しないように一歩一歩足場を確認しながら転びそうなときは山側に倒れる気持ちで歩くように教えてもらいました。元谷の堰

堤も吹雪かれることなく通過し 9 時頃避難小屋につきました。

元谷避難小屋で宿泊荷物を残置しハーネス・カラビナ・スリング・ヘルメットを装着しサブザックで、小雪がちらつく中、七合尾根を目指しました。この日のために、1 月の大休峰登山教室では、急斜面の登りの蹴り込み、下りの練習、滑落停止等の訓練を受けました。リーダーさんの真剣な指導の姿から、2 月のバリエーションコースは、危険で難易度が高いと想像できました。私に能力がないと思われれば参加不可と言ってくださいとお願しましたが、参加認められました。山行中もスタッフ皆さんが見守って下さる視線を感じ、声かけも頻繁にしてもらいました。受講生 5 人に對しスタッフさんが 6 人という贅沢な登山教室で、それぞれの気付いたアドバイスをいただけ、それが卒業してからの自分の登山技術にまた人との交わりに大いに生かせると思います。

七合目初めの急斜面、森本 CL さんから、これが登れなければ六合目にトラバースするよと言われましたが全員登りきました。1 月の練習の成果や、固い根雪の上に 20 センチほど雪が積もり安定した足場が作りやすいといった雪質にも恵まれたためでした。標高を上げていくと、霧がかかり視界も 20 m 程です。痩せ尾根が 10 m 続いた所では列の後部に回って雪面が踏み固められた状態で渡るように森本 CL さんから指示してもらいました。スタッフの皆さんに崖や雪庇の注意を受け、コース選びをしてもらいます。これくらいの靄の方が谷底まで見えなくて足がすくまないと言われて、初めて切り立った崖の上近くに自分がいると気付きました。私も谷底が見えずに良かったです。今回も、登ることに一生懸命なうえに霧がかかり自然美に目をやるのはほんの一瞬でした。夏山登山道との合流地点になると、霧が濃くなり風雪も一段と強くなりました。麓の林道出会いで教わった耐風姿勢が役に立ちました。アイゼンを突き刺し両手で持ち低姿勢で風抜けに足は広げると教わりました。

七合目夏道合流地点から夏道を下るのですが道は雪の下で、視界の悪い中ポールを探しながら踏み跡に沿って歩かないと斜面がきれ落ちているとアドバイ

スもらいます。私は前人の軽快な足さばきについて行こうとして転んでしまいました。前の人があっさりピッケルをさして私の動きを止めてくれました。体が滑るのをあっさり自分のピッケルで止める滑落停止が出来ませんでした。大きな反省材料です。この次はないことを祈りますが、転んだときのあっさりのピッケル、頭に焼き付けたいです。

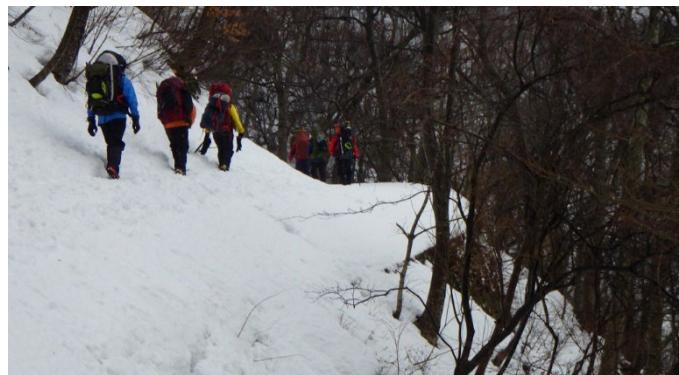
途中夏道から離れ六合尾根ルートで下山しました。今回は天候悪化が予想され、森本CLさん久保田SLさんのルートファインディングの後を受講生が続きました。

小屋に戻った後、夕方には風雨が強くなり翌朝まで小屋をたたきつける雨音と風音、台風並みに荒れていきました。しかし悪天候のおかげで小屋は私達で独占でき、室温も10度近くありました。食事担当の作られた牛骨コムタンやスタッフさん持参栗きんとんのデザートを食べながら、ゆっくりとバリエーションコース完歩の満足感に浸り、充実した時間が過ごせました。私は夕食時、ガスで雪を溶かして水を作る役を引き受けましたが、これは濡れたレインウェアを乾かすのいうつづつでラッキーでした。

朝6時前、私たちが気付かない間に、久保田SLさんが堰堤まで様子を見に行かれ、ずぶ濡れになつてもどられました。注意深く歩けば元谷堰堤渡れると報告してもらい、下山開始です。昨日の転倒があるので一歩一歩足場を確認しながら歩きました。アイスバーンになっている大山寺参道では、森本CLさんからペンギン歩きのように小股で歩くとバランスを崩しにくいと教わりました。

教室の雪山メインの七合尾根登山無事終えて安堵しました。また、小屋を去る時、スタッフのKさんはトイレを掃除してくださり、頭の下がる想いでした。私も次の小屋泊の時は見習います。スタッフ皆様の熱いご指導の下、雪山バリエーション山行、とても貴重な体験でした。厳冬の素晴らしい自然美の中に、登山教室皆さんと身を置けたことに感謝します。

（写真提供 久保田 征治）



3. 冬山技術研修会報告

（指導部長 森本 覚）

2/25(土)～26(日)

登山形態：研修会

山域：ひろしま県民の森

人数：32名（スタッフ含）

令和2年度及び3年度が新型コロナの影響で中止でしたので、平成30年度三瓶山で実施して以来の冬山技術研修会でした。残念ながら積雪量は少なかったのですが天候には恵まれ、予定していた内容は全て無事講習出来ました。（森本）

【感想文】

（初級クラス 向山 彰悟）

今回初めて参加した冬山技術研修会は、冬山を安全に登ろうと考えている私にとって、習得しなければいけないことばかりの研修会でした。私は、広島出身で中国地方を中心に山行しており、大好きな伯耆大山を安全に登り続けるため今回の研修会へ参加しました。

研修会は初・中級クラスに別れ、二日間行われました。私は冬山の基本を習得するため、初級に参加しました。

1日目の午前は、まず、中級クラスの方と合同で雪山に入り、雪質観察を行いました。冬山は雪崩の危険があり、自分が登ろうとする山の状態を知る必要があるため、スコップや手で雪をかき分けて簡易的に調べる方法を学びました。その後、各クラスに別れ、ストック、わかん・スノーシューを装着し歩行訓練を行いました。以前は、自分の感覚を頼りに登り降りしていたため、つまずいたり、転倒したりばかりでした。しかし、直登・直降・トラバース等の技術を学ぶことでそれらはなくなり、テンポ良く歩行することができるようになりました。また、ギアの特徴や疑問点について、丁寧かつ詳しく学びました。

午後は、午前の反復練習を行動食を食べながら行い、キャンプ場へ移動した後に、ツェルトテントの必要性と張り方・冬山のテントの張り方について学びました。私はツェルトテントのことを遭難したときに使うものと考えていました。しかし、休憩する時にも使用する便利なテントだと知りとても勉強になりました。ま

た、積雪時のテント張りについても、ユーチューブなどを見て知っているつもりでした。しかし、整地方法からペグの打ち方まで一つ一つポイントがあり、知ったつもりだったと痛感しました。知っているつもりのことでも、実は知らないことがたくさんあると実感しつつ、新しい発見ばかりでとても唯意義で楽しい時間でした。そして、テントを張り終えてからは、山岳会の方と共に温かい夜ご飯をみんなで食べて夜もとても楽しかったです。

2日目は、前日と同様、各クラスに別れて研修を行いました。初級クラスでは、4人一組になって雪崩で埋もれた時の模擬体験を行いました。雪に埋もれると声が吸収されてしまい、大声を出してやっと外の人が聞こえる状態でした。身動きも全くとることができず、雪の冷たさだけが伝わり、不安感・孤独感を感じることができました。この体験を教訓に山行する際は、常に雪崩の発生を意識し山行しようと実感しました。次は、様々なツェルトテントの張り方と休憩方法について学びました。ツェルトテントは使用する環境によって、樹木やストックなどを使い分けられることを知りました。また、ロープ結索・緊急時のロープ登はん・降下など、楽しく山行するために必要なことを学びました。

今回、初めて研修会に参加させていただくにあたり、研修内容についていけるか不安がありましたが終始楽しく学ぶことができました。また、研修会に参加することで、多くの方と関わることができ、これから山行がより楽しみになりました。ありがとうございます。最後に、今回の研修会に参加された方、多くのスタッフの方々、本当にありがとうございました。

（初級クラス 福山山岳会 山本 うた子）

私は、冬山登山経験がほとんどなく、昨年冬山装備を揃えて、岩場でアイゼントレーニングをして雪山大山に登りました。それから、冬山の楽しさだけではなく怖さも知る為に、きちんと基本から冬山技術を身につけて学ぼうと思い、地元山岳会に入会し、岳連の冬山技術研修会の案内をいただき初級を受講しました。

初級では、雪質観察、雪上歩行、埋没訓練、緊急避難などの基礎技術について学びました。

1日目の雪上歩行では『フラットフッティング』『キックステップ』、斜面の登下降やトラバースする時の歩行など教えていただきました。

下山が苦手な私は、滑ることへの恐怖心があり、姿勢が崩れがちになったり、へっぴり腰になったりします。雪山では特に『転ばないこと』が大事。転ばないようにする事が安全につながるのだと思いました。

ワカンの歩行練習で、私は初めてワカンを装着して歩きました。事前に自宅で、何度か装着の仕方を練習していたので、『ワカンをつけましょう』と言われた時は、ちょっとドキドキでしたが、スムーズに装着できてよかったです。

2日目の雪上歩行では指導者の方より『昨日より格段に上手くなっています』というお言葉をいただき、とても励みになりました。

埋没訓練では、実際に一人一人が埋没者となる体験をしました。訓練だとわかっていても、真っ暗い中で身動きもできない姿勢でじっとしているだけでも少し怖さを覚えます。

いろんな注意を払っていても避けれ事故が雪崩だと思います。雪崩は突然に起こる為それを完璧に防ぐ事はできません。自分が雪崩に遭遇した時、一緒にいた仲間が遭遇した時、どうすればいいのか、そんな機会はほとんどないだろうとは思わず、もう一度しっかり勉強したいと思います。

緊急避難については、ビバークは早めの決断が必要だと言うことを教えていただきました。

2人ペアになって、ビバークに適した場所を探して立木付近に雪でブロックを作り積みましたが、この作業もなかなか難しかったです。スリングやカラビナ、ストックを使ってツエルトで屋根を作りましたが、皆さん工夫されて作られていました。この日は風もなく動きやすかったのですが、実際冬山でビバークする時はホワイトアウトなどの悪天候の日も多いと思いますので、もっとテキパキと動かないといけませんね。

まだまだ身につける技術、知るべき知識はたくさんあります、今回習得したことを活かせるよう、来年は冬山登山の経験を多く積んで、冬山のスキルを高めるとともに、安全第一に楽しい登山ができるように取り組んでいきたいと思います。

最後になりましたが、指導者の方々、とても丁寧に教えてください、本当にありがとうございました。

（中級クラス 佐々木 修）

コロナの関係もあり数年ぶりに開催された冬山技術研修会（中級）に参加しました。

2日間を通じて雪崩のリスク、雪質観察、ビーコン操作、積雪時のビバーク、雪山でのテント泊、滑落のリスク対応（雪上支点の作り方、滑落停止、スタンディングアックススピレイなど）を学ばせていただきました。

初日は雪崩の知識に関する基本的なお話と雪質観察、ビーコンの基本操作と搜索練習でした。

雪崩に関してのお話は実際に雪崩にあった経験談や事故事例などを聞かせていただきました。雪崩れているときは搅拌されて止まるすぐに固くなり身動きが一切とれなくなることや、伯耆大山でも軽自動車くらいの大きさのブロック雪崩があったというお話など、あらためて雪崩の恐ろしさを感じました。実際に雪崩の事故に遭遇した場合には、まず消防へ山岳事故発生の連絡をすることが重要だと教わりました。

雪質観察では雪の角柱を掘り出してシャベルコンプレッションテストなどを行いました。積雪状況から表面の新雪がわずかなの想像がつきましたが、深い部分ほど固くなると思っていた下層の雪が地熱でズボズボの柔らかい状態になっていたのは驚きました。一見しっかりと雪が落ちているようで表面上だけではわからないので、やはりこれからの時期は雪崩への注意が特に必要だと感じました。

ビーコンを使った埋没者を想定しての搜索練習では、1人目（1つ目のビーコン）を見つけるだけですいぶん時間がかかり、生存リミットである18分以内に複数の埋没者を見つけて掘り出すのは非常に困難なことを実感しました。

自分たちは各自が一生懸命がんばるも統制がとれずおらず、サーチの効率が悪かったり、プロービングが強すぎたり、掘り出し方もやみくもだったりと反省点ばかりでした。役割分担やチームワークが大切なことがわかりました。

スピードィーに搜索をして埋没者の位置を正確に特定し、効率よく掘り出し作業や救護対応をするには相当しっかりとした訓練が必要なことを教わりました。

ツェルトを使った雪上ビバーク（4人での）では、ザックをベンチにして雪面からの冷えを防ぎ、少し大きめのツェルトを4人で一斉に被るというやり方を教わりました。パーティーで登山をする際には、少し大きめのツェルトも持っていたほうがよいと思いました。

初日の講習が終わり、キャンプ場の雪面で各自ソロテントを張りました。冬山でのテント泊は登山教室時代に大きめのテントでは経験がありましたが久しぶりでした。前もって張りやすいように自分なりに準備をしていたものの、風の強い場所だったらかなり苦労するだろうと思いました。

自在ひもを逆にしておくなどのコツを教えていただき、なるほど！と思いました。

ペグやペグ代わりの割り箸を埋めて張りましたが、翌朝には雪がしっかりと固まっていて掘り出すのに時間がかかりました。テントの設営と撤収だけでこんなに時間がかかっていたら、冬期のテント泊縦走などとてもできないなと思いました。テント一つとっても何回も練習をすることが大切だと思いました。

日暮れごろからは雪が降りはじめ寒さが増しましたが、仲間が準備してくれた温かい美味しい夕食をいただきて身体が暖まりました。スタッフの皆さんや受講生の皆さんといろいろなお話ができる楽しかったです。寒さ対策はそれなりにしてはいたものの、4時ぐらいには寒さで目が冷めました。トイレで外へ出てみるとけっこうな積雪でした。日が昇ってからは気持ちの良い晴天でした。

2日目は初級と中級にわかつての講習でした。自分は中級を受講しました。

前半は雪上支点の作り方でした。

スノーボードや土嚢に雪を詰めたアンカー、スノーピケット（スノーバー）やお面のようなデッドマン、落ちている枝などを集めて巻いたアンカーなどをつくりました。

はじめはロープが抜けてしまったり支点が動いたりと不安定でしたが、やはり教わったようにプラトー（雪を踏み固めた土台）をしっかりとつくると男4人でテンションをかけても動かないくらいの強固な支点ができました。

ただし、もっと傾斜のある場所や雪質や天候状況により支点構築もむずかしくなることが想像できました。また自分が作った支点を信用して命を預けられるか？というプレッシャーも難易度を上げるとだろうと思いました。

後半は斜面を利用しての滑落停止の練習、立ち木や笹藪で支点をとりながらのマルチピッチの練習、雪上での確保技術でスタンディングアックスビレイを教わりました。

滑落停止の練習は講習などで何度も経験していましたが、実際に転倒したらどんな姿勢で滑り落ちるかわからないので、どんな姿勢であっても素早く強くピッケルを打ち込まないと感じました。そしてまずはスリップや転倒をしないように雪上での正しい歩行をして、つまずいたりしても初期制動でしっかり止めることが意識せずともできるようになっておくことが大切だと思いました。

立木などで支点をつくりながらのマルチピッチの練習では、下生えの藪の細枝などでも複数本束ねて正しく支点をつくれば思った以上に強度のある支点となることがわかりました。これは立ち木などの支点の少ない場所でも有効な支点構築だと感じることができました。

マルチピッチの流れ自体は、クライミングスクールで習ったこともありそれなりにスムーズにできたと思います。

ですが、雪山で森林限界を越えて支点をとるようなものがほとんどなく、雪と岩のミックスの場所や斜度がきつい場所ではかなり恐怖感が出て、緊張から本来

できていたことができなくなったり、パフォーマンスが落ちたりするだろうと思いました。やはり繰り返しの練習が必要だと思いました。

スタンディングアックスビレイは、本や動画を参考にして自分なりに練習をしていましたが、手順やポイントの1つ1つに重要な意味があることを教わり理解が深りました。スタンディングアックスビレイの体勢をつくるところまではわりとスムーズにできたと思います。

しかし、クライマーが滑落したと想定して実際にクライマー役の人に思い切りテンションをかけられると姿勢を保持するのもかなり大変でした。引き上げることはもちろん不可能で、体勢が崩れてロープの制動さえもままならなかったです。その状態からロープを固定してビレイヤーが動けるようになる流れなど、デモンストレーションで教わっている時にはできそうだと思ったことが、動けないくらいのテンションがかかると全然できませんでした。

後々ずっと考えて、習ったとおりにはできなくても、自分の頭で考えてとにかく何でもやってみればよかったです。技量はもともと足りませんが、自分の応用力のなさが情けなかったです。

ビレイヤーが動けるようにならないと救助要請もできず2人共が窮地に立たされることになります。

ロープワークはもちろん、確保技術や自己脱出技術を繰り返し練習して自分の技量を積み重ね安全性を高めていきたいと思います。

今回の研修会のいちばんの気づきは、“知っている”と“できる”的にはとんでもない開きがあるということです。

今まで習った知識やロープワークやいろいろな技術も“知っている”レベルではだめで、どういう状況でどの技術を組み合わせて応用するかというところまで、自分の頭で考えて実践的な練習を積み重ねていかないと、“できる”というレベルまで達しないことが少しでも実感できました。

まだまだ課題は山積みですが、トライアンドエラーを繰り返して、少しづつ経験を重ねながら積み上げていきたいと思います。また、エラーが致命的なエラー

にならないように冷静な状況判断を心がけたいと思います。

2日間通してたくさんの気づきと学びをいただきました。またファーストエイドやレスキューなどの講習も受講したいと思います。講師の皆さん受講生の皆さん、ありがとうございました。

（中級クラス 福山山岳会 中山 富夫）

登攀システムの講習では、これまでリーダーの指示に従って、ろくに訳も分からず見様見真似でやってきた技術を、丁寧な解説と反復練習によって理論的に理解することができました。

詰め込みがちな研修会と違い、今回の研修は内容がかなり絞られていたため、消化不良に終わることなく吸収できたのではないかと思います。

その反面、今回の研修会では時間を持て余すことも多く、できれば夕刻からは公園センターなどの施設を使った座学を取り入れることで、実技講習時の理論解説の効率化にも繋がるのではないかと感じました。

今後、公園センターの使用が危ぶまれていますので、会場の問題で難しいとは思いますが、ご検討頂けると幸いです。

また、今回のような技術研修会が雪山シーズンの序盤に開催されると、そのシーズンでの反復機会も増え習得も早い気がします。

雪山シーズンも残すところ少なくなってきましたが、教わったことを忘れる前に実践してみたいと思います。ありがとうございました。

（写真提供 久保田 征治）





初・中級クラスそれぞれで



5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

2/23 三原山の会『筆影』No. 516（3月号）

2/24 福山山岳会『会報』3月号

広島山岳会『山嶺』第891号（2月）

広島やまびこ会『やまびこ』797

2/26・3/7 『中信高校山岳部かわらばん』717・718

2. 3~4月の行事予定

4/8~9 スカイラン看板掛け（比婆山）

4/15~16 同予備日

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽に寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。

